

国語 小4 下

もくじ

第1回	説明文 段落	4
	名詞(1)	12
第2回	説明文 筆者の言いたいこと	14
	動詞(1)	22
第3回	物語文 場面をつかむ	24
	形容詞・形容動詞(1)	32
第4回	物語文 場面の展開	34
	副詞(1)	42
第5回	第1回～第4回のまとめ	44
第6回	説明文 段落と段落のつながり	52
	慣用句・ことわざ(1)	60
第7回	説明文 文章を比較する	62
	慣用句・ことわざ(2)	70
第8回	物語文 気持ちと気持ちの変化	72
	複合語・派生語	80
第9回	物語文 人物像	82
	作文の書き方	90
第10回	第6回～第9回のまとめ	92

第11回	詩 表現を中心に読む	100
	敬語(1)	108
第12回	実用文 資料の特徴をつかむ	110
	敬語(2)	118
第13回	随筆文 筆者の気持ちと考え	120
	同訓異字・同音異字・同音異義語	128
第14回	物語文 できごとと気持ちの関係	130
	類義語・対義語	138
第15回	第11回～第14回のまとめ	140
第16回	説明文・論説文 筆者の考え・要旨	148
	主語・述語・修飾語・文の基本型	156
第17回	物語文 人物像と主題	158
	名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞(2)	166
第18回	第16回～第17回のまとめ	168

例題

★ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

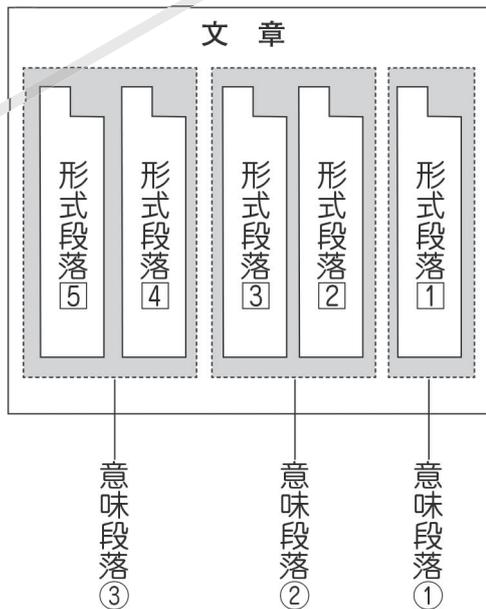
ねらい

- ・形式段落ごとの要点をとらえる。
- ・文章を意味のまとまりで分ける。
- ・名詞の種類と働きを理解する。

学習の要点

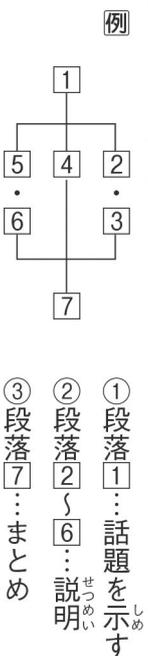
●形式段落と意味段落

- (1) 形式段落……一字下げて書き始められ、改行によって区切れる文章のひとまとまり。
- (2) 意味段落……内容が共通する形式段落をいくつか合わせた大きなまとまり。



●文章を意味のまとまりで分ける方法

- (1) 形式段落の要点をつかむ。
- (2) 形式段落を意味段落にまとめる。
- (3) 文章の組み立て図を作ってみる。



大きく三つに分かれる

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(小島俊明「ひとりで、考える——哲学する習慣を」より)

問一 — 線①「こんな光景」は、どの段落からどの段落を指していますか。段落の番号で答えなさい。

落の番号で答えなさい。

段落 段落

問二 — 線①についての筆者の考えが述べられているのはどの段落ですか。段落の番号で答えなさい。

段落

問三 筆者の意見をまとめて述べているのはどの段落ですか。段落の番号で答えなさい。

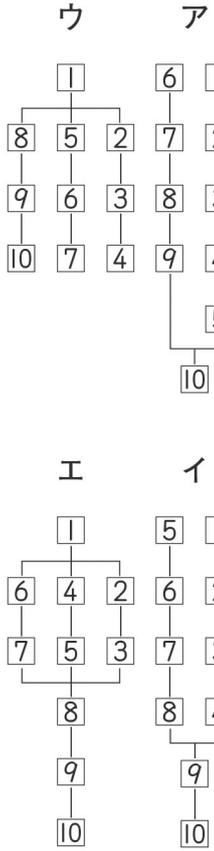
段落

問四 筆者の望む社会を実現するには、どんなことから始めるとよいですか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中から書きぬいて答えなさい。

人真似でない、

 を持つこと。

問五 段落の関係を図で表したものを次から選び、記号で答えなさい。



問一 □段落では、これから示す具体例の要点をあげていきます。あとに続く段落のどこまでが具体例かを見きわめましょう。

問二 □段落に続く具体例についての筆者の考えを述べた段落をさがします。単なる感想ではなく、あとの段落でさらに深められていく考えをさがします。

問三 個々の話題のまとめではなく、文章全体のまとめとして筆者が考えを述べている段落をとらえましょう。筆者は、日本の社会のあり方よりも、初めに示したパリの人々のように、個人主義が確立された社会のあり方のほうがよさそうだと考えています。

問四 個人主義が確立された社会で、その姿勢がどんなふうに育まれているかについては、□段落から読み取ります。

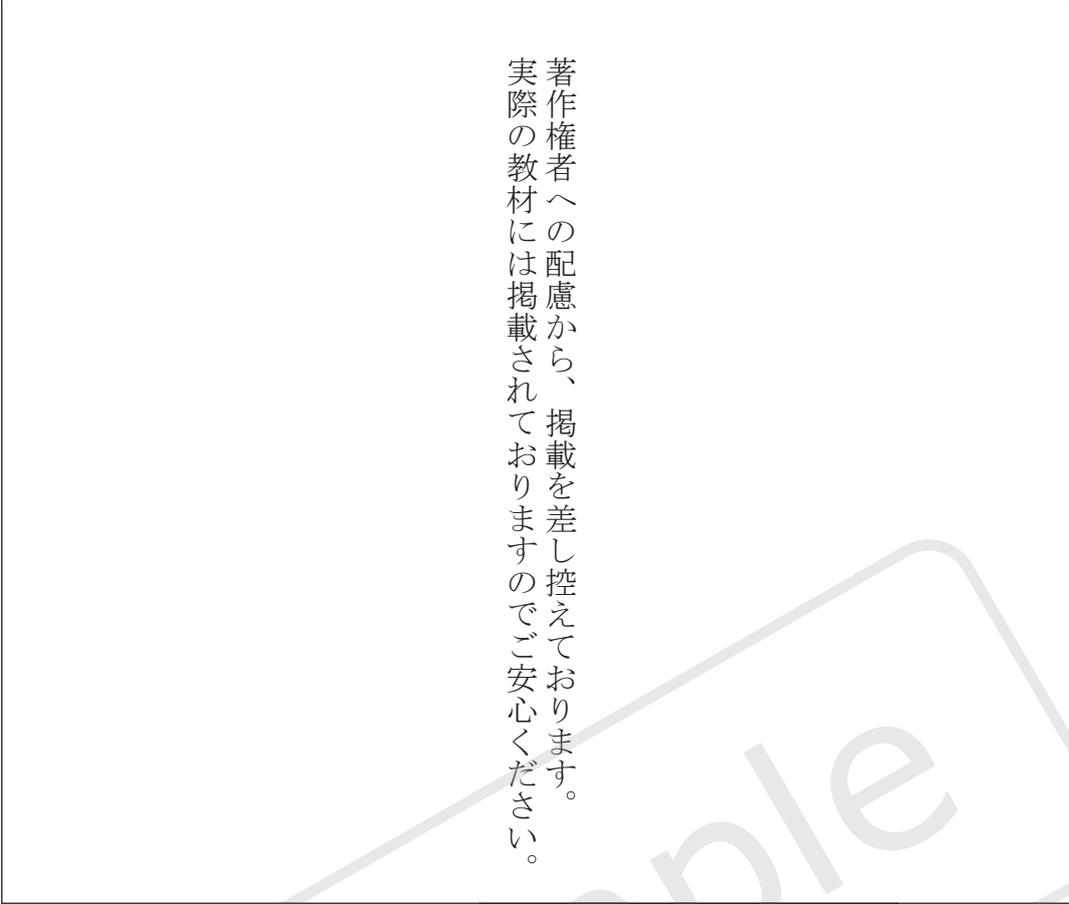
問五 大きく分けて三つに分かれます。話題を示し、さらに情報を加えて考えを深め、結論を述べる構成です。

- ① 段落：具体例のあらすじ
- ②・③ 段落：具体例
- ④ 段落：具体例についての筆者の考え
- ⑤ 段落：具体例から導かれた話題の提示
- ⑥・⑦ 段落：考察を深める補足情報
- ⑧ 段落：補足情報についての筆者の感想
- ⑨ 段落：導き出された結論
- ⑩ 段落：結論に基づく筆者の意見

1 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(富山和子「川は生きている」より)



問一 線①「命びろいをした」とありますが、森林がどうしてく

れたからですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文章中から十
 八字で書きぬいて答えなさい。

森林が、水を毎日かくじつにはきだし、

くれたから。

問二 線②「しくみ」とありますが、どんなしくみですか。次の

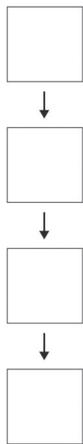
ことから正しい順序にならべ、記号で答えなさい。

ア 水が地下にしみこむ。

イ 森林の土に雨がすいこまれる。

ウ あつまって川の水になる。

エ 下流で土の外にわき出る。



問三 森林の「しくみ」の中で、大切な役割を果たしている「スポン

ジ」みたいな土がどのような土であるかを説明している段落はど
 れですか。段落の番号で答えなさい。

段落

問四 森林の「しくみ」とは対照的な、洪水の水についてふれている

段落はどれですか。段落の番号で答えなさい。

段落

問五 この文章を二つに分けるとすれば、どこで分けられますか。後

半の初めの段落の番号を答えなさい。

段落

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(小泉武夫「花を食べる」より、一部省略などがあります)

20 15 10 5

問一 段落にのべられている、この文章の話題は、どんなことですか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中から書きぬいて答えなさい。

さしみにそえられた

□
□
□
□
□

を食えることには、

がかくされていること。

問二 線①「きちょうな栄養分」の例を文章中からさがし、初め

と終わりの五字を書きぬいて答えなさい。

□
□
□
□
□

問三 線②「区別」とは、どんな区別ですか。あてはまらないも

のを次から選び、記号で答えなさい。

ア 食べられるかどうか。

イ おいしいかどうか。

ウ 体によいかどうか。

エ においがよいかどうか。

□

問四 線③「それぞれの花に合う使い道」とありますが、この文

章には使い道がいくつ書かれていますか。その数を漢数字で答えなさい。

□

問五 線④「このように」は、どの段落からどの段落を指して

ますか。段落の番号で答えなさい。

□
□
段落

問六 この文章を三つに分けるとすれば、どこで分けられますか。次

から選び、記号で答えなさい。

ア ①—②③④—⑤⑥
イ ①②—③④—⑤⑥
ウ ①—②—③④⑤⑥
エ ①—②③④⑤—⑥

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40 35 30 25

問1 この文章の話題を示している段落はどれですか。段落の番号で答えなさい。

段落

(小原秀雄「人間がさばくを作った」より、一部省略などがあります)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25

20

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50

45

40

35

30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) こしきクモの巣の中心にある、横系のない部分。
(大崎茂芳「糸を出すすごい虫たち」より) 65

問一 — 線① 「昆虫の習性を理解しながら、クモを探すことが重要である」とありますが、文章中に書かれているクモを探す場所を、その場所がふさわしい理由もわかるように、昆虫の習性と合わせて三つ書きなさい。

問一 — 線② 「巧妙さ」とありますが、クモの巣の張り替えの巧妙な点を具体的に書きなさい。

問二 — 線③ 「クモは種類によって特徴ある巣作りをする」とありますが、次の1〜4は、ア「ジヨロウグモ」、イ「ズグロオニグモ」、のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 橋の欄干や橋脚の下の空間によく巣を張る。
- 2 巣の半分を2日に一度張り替える。
- 3 6月から8月に巣を見かけることが多い。
- 4 9月から11月に巣を見かけることが多い。

1

2

3

4

問四 この文章を二つに分けるとすれば、どこで分けられますか。後半の初めの段落の番号を答えなさい。

段落

名詞(1)

品詞

文節を組み立てる部分で、これ以上分けて考えられない最小単位を「単語」、単語を働きの形の上から分類したものを「品詞」といいます。品詞には次のものがあります。

- ・名詞
例 犬・朝日・利根川・三人・五枚・そこ・ぼく
 - ・動詞
例 歩く・思う・立つ・読む・投げる・いる
 - ・形容詞
例 早い・高い・美しい・かしこい・重い
 - ・形容動詞
例 静かだ・元気だ・不思議だ・急だ・おだやかだ
 - ・副詞
例 ゆっくり・もつと・とても・おそらく
 - ・連体詞
例 この・その・あの・どの・小さな・あらゆる
 - ・接続詞
例 しかし・だから・また・あるいは・ところで
 - ・感動詞
例 ああ・まあ・もしもし・おい・はい・いいえ
 - ・助詞
例 が・を・に・と・は・の・で・も
 - ・助動詞
例 くない・られる・そうだ・ようだ
- 名詞**
- (1) ものやことからの名前を表したり、指し示したりする単語。
 - (2) それだけで文節を作ることができ、言葉の形は変わらない。
 - (3) 主語になれる単語(体言)。例 花が さく。
- 〈名詞の種類〉
- ・固有名詞 例 東京・アメリカ・野口英世・太平洋
 - ・普通名詞 例 人・犬・学校・チューリップ・元氣
 - ・数詞 例 一つ・二つ・五本・第一
 - ・形式名詞 例 考えること・遊ぶもの・入るところ
 - ・代名詞 例 これ・それ・そこ・かれ・わたし・君・どれ

問一

次の(1)～(10)の言葉は、後のどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------|--------------|----------|--------|
| (1) 京都 | (2) 教室 | (3) 三回 | (4) 親切 |
| (5) あなた | (6) 小説家 | (7) 夏目漱石 | (8) 一人 |
| (9) 一等 | (10) 『赤毛のアン』 | | |
- ア 「学校・水」など一般的なもののやことからの名前(普通名詞)
 イ 「富士山」など、それだけにつけられた名前(固有名詞)
 ウ 数や順序などを示す言葉(数詞)
 エ 物事の代わりに示す言葉(代名詞)

- | | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
| <input type="text"/> |
| (6) | (7) | (8) | (9) | (10) |
| <input type="text"/> |

問二

次の(1)～(4)の各文から、名詞を全て書きぬいて答えなさい。

- (1) 三時に中野駅の南口で会いましよう。
- (2) わたしの書いた作文がコンクールで特選に入った。
- (3) ヘリコプターが音をたてながら、晴れた空を飛びました。
- (4) 物語を読んで、心に残った場面をぬき出す。

問三 次の(1)～(8)の名詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- (1) どなた (2) エベレスト (3) 五台 (4) そちら
 (5) うちわ (6) 一輪車 (7) ロシア (8) 九羽

ア 固有名詞 イ 普通名詞 ウ 数詞 エ 代名詞

(1)	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>
(4)	<input type="text"/>
(5)	<input type="text"/>
(6)	<input type="text"/>
(7)	<input type="text"/>
(8)	<input type="text"/>

問四 次の(1)～(5)の名詞の中から、ほかと種類がちがうものを選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 東京 イ 太平洋 ウ 大阪 エ 黒板
 (2) ア 四国 イ 三びき ウ 二円 エ 一周
 (3) ア ぼく イ わたし ウ 父 エ 君
 (4) ア 桜 イ 青空 ウ びわ湖 エ ビル
 (5) ア そり イ それ ウ どこ エ あなた

(1)	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>
(4)	<input type="text"/>
(5)	<input type="text"/>

問五 次のの中から名詞でないものを全て選び、記号で答えなさい。

- ア 赤い イ 北海道 ウ 歩く
 エ 先生 オ 美しい カ 美しさ
 キ これ ク この ケ 京都
 コ わたし サ しかし シ だから
 ス ゆっくり セ ひとつ ソ カエル

<input type="text"/>

問六 次の文章の□にあてはまる言葉を答えなさい。

名詞は、それだけで文節を作ることができ、また、「は・が・も」などがついて、①になることができます。活用はなく、形が変わることはありません。

名詞には、五つの種類があります。一つ目は②で、そのものだけの名前を表します。二つ目は③で、「ねこ」「つくえ」などふつうの言葉の名前を表します。三つ目は④で、数量や順序を表します。四つ目は⑤で、「話すとき」の「とき」など実質的には意味がなく形式的に用いられる名詞をいいます。五つ目は⑥で、直接そのものの名前を表すのではなく、代わりの言葉で指し示すものです。

④	<input type="text"/>	⑤	<input type="text"/>
①	<input type="text"/>	②	<input type="text"/>
⑥	<input type="text"/>	③	<input type="text"/>

問 次のことばの豆知識

- (1) 店の前は□山の人ばかりだった。
 (2) 世間から□い目で見られた。
 (3) あのひと名字は同じですが、□の他人です。
 (4) 店の売り上げがふえて、決算が□字になった。
 (5) 少女たちが□色い声を張り上げておうえんする。
 (6) 先生は□すじを立てておこった。